
井戸

並木 道生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

井戸

【Nコード】

N1246V

【作者名】

並木 道生

【あらすじ】

お馬鹿なSSです。

妖怪のである井戸を見物に行った我々は・・・

ある夜の話。妖怪がでる井戸があるというので見物にいった。酒の席での話で話し手の話に興が乗り。いこういこうでみんなで行った。弁当をつるしているものもいる、行灯をもっているものもいる。おまえなんで行灯なんてもっているのだと聞くと。酒のんでた部屋にあったから持ってきたとかなんとかで、三角コーンかぶってる奴。二人して抱き合いながらあるく奴。途中からこの行列に加わって「どこ行くんですかね」と聞いている奴と、もう色々で、みんなして妖怪の出る井戸に向かった。目当ての井戸を見つけて覗き込む。小腹がすくと思ったから弁当もってきた、という英雄の女子を讚えたあと。みんなで井戸みながら弁当たべた。弁当英雄の女の子の友達が「あつ！そこにピーピングがある」と叫んだ。どうも行列を後からつけてきた奴が、ずっと、じっと、わたしらを覗き込んでいたらしい。わたしらを覗くとはまた。嘆かわしいことである。嘆かわしい奴である。死んで詫びてもらおう。「後生ですから、出来心ですから。恵美子恵美子」と泣いて地面に這いつくばるピーピングを、「悪いけど、ごめんですんだら警察はいらんからね」と、みんなで叩き殺して、井戸に蹴落とす、ぼちゃん。音がして、しばらくすると、ぬつと井戸から妖怪がでた。わつとみんなだとびのいて、遠巻きにしながら、妖怪めがけて、それぞれが手にもったものを、得手勝手に投げつけまくり、くるな、くるな、くるな、くるな、の大合唱。妖怪はあきれ果て、肩に担いだ、ピーピングの死体を、どさりと井戸の横にほおると、また井戸の中に戻って行った。「こらまで！にげるかああ！」いつもは寡黙な今泉がそう叫ぶと、妖怪は再びでてきて、寂しそうに笑って、またずっと井戸の中に消えて行った。しらけた。場がしらけた。しらけてしまった。熱気がおさまり、すっと冷静さがでて、肌寒さも感じていると。ここは、妖怪の腹の中じゃないか？ という気がしてきて、これはもう、逃げよう。こ

ここにいてはダメだ。逃げる！逃げる！という事になり、みんなであちこち走り回って、でも、どこへいっても、どうやっても、井戸の前に来てしまおうという異常事態に、すすすすすと、血がひいて青ざめざるをえず、「あのお方からんだ今泉が悪い」という奴おり、「そんなこというなよ、仲間じゃないか」と取りなすものあり、「あれ、さっきのピーピングの死骸がないぞ」と騒ぐものありで、いったんは騒いだものの、冷気がすつと腹の底を、そして頬をなでるようで、薄気味悪く、みなで井戸の前にたたずんでしまっている。「堪忍してください、ご容赦ください。助けて下さい」と呪文のように唱えるものもあれば。あるもの、こいつはどこかの大学で博士号をとったので、からかい半分に、博士といわれてるが「ここは妖怪の腹の中ようだ」とはつきり言う。「そんなことは、はなっから分かってるんだ、俺たちは妖怪に食われたんだ」そうさげぶ緒方に向かって、博士はなおの事冷静に「腹から出る道は二つ。上か、下かだ」ということで、おれたちは、うんこになって、下からでるのだろうか？そうなんだろうか？うんこになってしまふのだろうか？とケンケンガクガクの騒ぎになって、「口からゲロとして出るべし」という伊藤に対して、博士は「口はたぶんあれですよ」と、虚ろな月を指差すので、いまの馬鹿なメンツと、ここの材料だけで月口ケツトなどつくれるはずもなく、悲嘆にくれて、おれたちは妖怪の肛門より外の世界を目指すしかないのか、と嘆き。それでも腹はへるので、あまつている弁当をみなで食って、次いでに酒を呑んでいるうちに、なぜか楽しくなり。井戸を前に、みなで輪になって、歌って踊って輪になって。裸になって。お面をかぶって。わはははわははと笑いながら、一人二人と井戸の中に飛び込んで消えていき、最後の一人が、えいやつと飛び込み、井戸の周りには誰もいなくなつた。しんとしていてさつきまでの騒ぎが嘘のようで、地虫どころかヤブ蚊一匹飛んでいない。

しばらくすると、妖怪が井戸からぬつと現れて。みな死骸を次々

に捨てて迷惑そうに井戸に戻って行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1246v/>

井戸

2011年10月9日10時22分発行